



人生・農業 リセット再出発!

RESET RESET RESET 第3回



国際線航空会社乗務員・作家
黒木安馬

「人生夢死という言葉がある。何も生（なま）まないうちに一生を終えることを言う。人生何かをするには短すぎるが、何もしないには長すぎる。神様は言う。人生お一人様一回限りにさせていただきますいております」と。講演会場で参加者に必ず質問することは、「今日こんな所で自分が死ぬなんて想像もしなかったというのが死んでいく人の共通点。さて集まっていたいただいた全員は死神に選ばれた人だけだと仮定しましょう。まだ死ぬのは嫌だという人は手を挙げてください」と。すると当然全員が挙手する。「あの世に連れて行くのを見逃してやってもいいが、一つだけ条

件をつけましょう。それは全く同じ人生の繰り返しだが」と畳みかけると、まず会場はシーンとなる。

あなたの夢を三つ教えてください、と続けるとほとんどが黙り込む。人生の彫刻には手段・道具であるノミ（仕事）と、夢・目的である設計図が必須。三つどころか一つの夢も考えつかないようだったら、日暮れ腹減る糞して寝る、でしかない。さて、あなたは人生彫刻芸術の青写真を即座に示せるだろうか？ 人が死ぬのは夢を捨てたとき、夢があるから活きている。

群馬県の癌病院で講演を頼まれた時のこと。院長自ら高座で落語を始めた。

曰く、「夢を持ち明るく笑える人に癌患者はいない」と。好きなことをやっている時は α 波で脳力が最大限に発揮され、自然治癒力も高まる。 β 波はイライラしてストレスを受けている状態で脳力の十分の一も発揮できない。仕事も嫌々日課のごとくこなしていると人生も病気になる。何がどう転んでも面白い！と必要以上に明るい便所の百ワット電球のような、ネアカに捉える心構えが能率を上げ、回りにも好かれる面白人生になる。「仕事が楽しみなら人生楽園だ、仕事が義務なら人生は地獄だ」とはゴリキキ。

樹林で落ちた種から発芽して、これを実生（じつせい）というが、厳しい風雪に耐えて大木に成長するのは0.1%以下。日本人人口一億三千万人、一発五億個の精子からたった一個だけ選ばれてこの世に存在しているのがあなた。

国民の約半数三千万人が農家のタイでは、米の値段一キロ十バーツ（27円）が三割減に。肥料代などで農家の借金 は年収の五倍。それでも底抜けに明るい。夢を聞くといくらでも明確に口に出す。

砂漠のど真ん中に落とされても私は成功する！環境が人間を作るのではなく人間の心構えが環境を作るのだから、とある成功者。

棒ほど願えば針ほど叶う。明確でデッサン夢を掲げて思い切つてやってみれば予想するほど心配事は起こらない。百聞は一見にしかず、百見は一試にしかず。同じ人生の繰り返しでもウエルカムと、もう手を挙げようではないか。

1950年熊本県生まれ。高校在学中にAFS奨学生で米国留学後、早稲田大学を経て航空会社に入社。業界の常識を破る「カラオケ・フライト」を企画して計7便飛ばし、後に北島三郎らによる「世界初1万メートル上空機上コンサート」も実現させる。自宅は28歳の時に1300坪の土地を開墾して2年半がかりでプールを手作りし、テニスコート、コンサートホールも造る。自宅ステージでは加藤登紀子、山下洋輪、坂田明、尾崎紀世彦など多くのライブやピカソ展を企画し、地域活性化触発運動「グループ・ザ・田舎るちあ」を主宰している。多くの実体験に基づいた人生成功哲学の講演や著書は大手企業でも人気を博して乗務の間をぬって全国を飛び回っている。著書に「面白くなくっちゃ人生じゃない!」（KKロングセラーズ）、「出過ぎる杭は打ちにくい」（ワニブックス）、「リセット人生再起動マニュアル」（ワニブックス）、「小説・球磨川」（ワニブックス上下巻）がある。E-mail : yasuna@mxj.mesh.ne.jp